

しょう6 こくご「^{ぶんしょう}文章の^{ようし}要旨・^{ひっしや}筆者の^{しゅちよう}主張」その2

なまえ _____ がつ にち てん _____ / 20

- 1 ^{しっぱい}失敗をおそれていては、^{なに}何も^み身につかない。^{しっぱい}失敗から^{まな}学ぶことこそが、^{じょうたつ}上達へのいちばんの^{ちかみち}近道なのだ。

^{ひっしや}筆者がいちばん言いたいこと(要旨)は？

^{しっぱい}ア 失敗から^{まな}学ぶことが^{じょうたつ}上達への^{ちかみち}近道だ ^{しっぱい}イ 上達には^{まな}近道がある

^{れんしゅう}ウ 練習しなくても^{じょうたつ}上達できる ^{しっぱい}エ 失敗は^{ぜったい}絶対にしてはいけない ^{こたえ} _____

- 2 ^{おな}同じ物^{ものがたり}語でも、^よ読む人によって^{おも}思いえがく^{けしき}景色はちがう。^{どくしょ}読書は、^{そうぞう}想像する力を^{ちから}育てて^{そだ}くれる。

^{ひっしや}筆者がいちばん言いたいこと(要旨)は？

^{そうぞう}ア 想像は^{やく}役に^た立たない ^{ものがたり}イ 物語は^{おな}みな同じに見える ^{どくしょ}ウ 読書は^{そうぞう}想像する力を^{ちから}育てる

^{ほん}エ 本は^よ読まないほうがよい ^{こたえ} _____

- 3 ^み身の回りが^{まわ}整っていると、^{ととの}探し物の^{さが}時間が^{もの}減り、^{じかん}心も^へ落ち着く。^{こころ}整理整頓を^お毎日の^つ習慣^{せいり}に^{せいとん}したい。^{まいにち} ^{しゅうかん}

^{ひっしや}筆者がいちばん言いたいこと(要旨)は？

^ちア 散らかっていても^{へいき}平気だ ^{せいり}イ 整理整頓を^{せいとん}習慣に^{しゅうかん}したい ^{せいり}ウ 整理は^{じかん}時間の^{むだ}むだだ

^{しゅうかん}エ 習慣は^か変えられない ^{こたえ} _____

- 4 ^{ほん}本を読むと、^よ行ったことのない^い場所や、^{ばしょ}昔の^{むかし}時代の^{じだい}ことを^し知ることができる。^{どくしょ}読書はわたしたちの^{せかい}世界を^{ひろ}広げてくれるのだ。

^{ひっしや}筆者がいちばん言いたいこと(要旨)は？

^{どくしょ}ア 読書は^{せかい}世界を^{ひろ}広げてくれる ^{ほん}イ 本は^{たか}高いので^{としょかん}図書館で^か借りるべきだ ^{りょこう}ウ 旅行に行くべきだ

^{むかし}エ 昔の^{じだい}時代は^よよかった ^{こたえ} _____

5 ちい いっぱ つづ おお ちから きょう つ
どんなに小さな一歩でも、続けることで大きな力になる。今日できることを、こつこつ積
かさ
み重ねていきたい。

ひっしや い ようし
筆者がいちばん言いたいこと(要旨)は？

ア つづ おお ちから どりよく つづ ちい いっぱ いみ
こつこつ続けることが大きな力になる イ 努力は続かない ウ 小さな一歩は意味がない

いちど おお
エ 一度に大きくやるべきだ こたえ _____

6 ていねい ことば あいて たいせつ きも つた ばめん あ ことば えら
丁寧な言葉づかいは、相手を大切にすることが大切。場面に合った言葉を選びたいも
のだ。

ひっしや い ようし
筆者がいちばん言いたいこと(要旨)は？

ア ふよう おな ことば
ていねいさは不要だ イ いつも同じ言葉でよい

う ばめん あ ことば えら ことば き
場面に合ったていねいな言葉を選びたい エ 言葉づかいは気にしなくてよい

こたえ _____

7 あたら ちょうせん はじ いっぱ じぶん せかい ひろ
新しいことに挑戦すると、初めはうまくいかない。だが、その一歩が自分の世界を広げ
てくれる。

ひっしや い ようし
筆者がいちばん言いたいこと(要旨)は？

ア ちょうせん いっぱ じぶん せかい ひろ はじ かん せかい ひろ
挑戦する一歩が自分の世界を広げる イ 初めから完ぺきにできる ウ 世界は広がらない

ちょうせん
エ 挑戦はしないほうがよい こたえ _____

8 もんだい と よろこ おお かんが
むずかしい問題ほど、解けたときの喜びは大きい。すぐにあきらめず、じっくり考えぬく
ことが大切だ。

ひっしや い ようし
筆者がいちばん言いたいこと(要旨)は？

ア かんが もんだい かんが こた み
考えてもむだだ イ むずかしい問題はさけるべきだ ウ すぐ答えを見るべきだ

かんが かんが たいせつ
エ あきらめずじっくり考えぬくことが大切だ こたえ _____

9 よく^たかんで^{しょうか}食べると、消化^{あじ}がよくなり、味^{ふか}わいも深^{いそ}まる。急^たがず ゆっく^{たいせつ}り食^{たいせつ}べることを大切にしたい。

ひっしや い ようし
筆者がいちばん言^いいたいこと(要旨)は？

ア よく^たかんでゆっく^{たいせつ}り食^{たいせつ}べることを大切にしたい イ 早^{はや}く食^たべるほうがよい

ウ かむ^{ひつよう}必要はない エ 食^{しょくじ}事は関^{かんけい}係ない こたえ _____

10 ことば ^{つか} ^み言葉は使^{もち}うほ^{まちが}どに身^{はな}につ^{じょうたつ}いていく。間違^{ちが}いをおそれず たくさん話^{はな}すことが、上^{じょうたつ}達^{ちが}へのい
ちばんの近^{ちかみち}道だ。

ひっしや い ようし
筆者がいちばん言^いいたいこと(要旨)は？

ア 上^{じょうたつ}達^{れんしゅう}に練^{はな}習^{はな}はいらない イ 話^{はな}さないほうがよい ウ 間違^{まちが}えてはいけない

エ 間違^{まちが}いをおそれず話^{はな}すことが上^{じょうたつ}達^{ちかみち}への近^{ちかみち}道だ こたえ _____

11 うま^{かた}い^{みなお}かないときこそ、やり方^{きかい}を見直^{しつばい}すよ^ふい機^{かえ}会^{つぎ}だ。失^{いっぽ}敗^{いっぽ}を振^{つぎ}り返^{いっぽ}ることで、次^{つぎ}の一^{いっぽ}歩^{いっぽ}
が^み見^みえてくる。

ひっしや い ようし
筆者がいちばん言^いいたいこと(要旨)は？

ア 失^{しつばい}敗^ふを振^{かえ}り返^{つぎ}ることが次^{つぎ}につ^{かた}ながる イ やり方^かは変^{かた}えな^かくてよい

ウ すぐあ^{しつばい}き^みらめ^みるべきだ エ 失^{しつばい}敗^みは見^みないほうがよい こたえ _____

12 ひと ^{とくい} ^{にがて}人にはそれぞ^{ちが}れ、得^{みと}意^あなこ^{ちが}とも苦^{みと}手^あなこ^あもある。違^{ちが}いを認^{みと}め合^あうこ^あとで、み^{ちから}ん^{ちから}な^{ちから}が力^{ちから}を
出^だせる。

ひっしや い ようし
筆者がいちばん言^いいたいこと(要旨)は？

ア 違^{ちが}いを認^{みと}め合^あうこ^{たいせつ}とが大切^{たいせつ}だ イ み^{おな}ん^{おな}な^{おな}同^{おな}じで^{おな}ある^{おな}べき^{おな}だ ウ 違^{ちが}いは悪^{わる}いこ^{わる}とだ

エ 苦^{にがて}手^{ひと}な^{ひつよう}人^{ひつよう}は必^{ひつよう}要^{ひつよう}ない こたえ _____

- 13 その日の出来事を短くでも書き留めると、自分の変化に気づける。振り返りは、次の一歩を助ける。

ひっしや い ようし
筆者がいちばん言いたいこと(要旨)は？

ア 変化には気づけない イ 振り返りはむだだ ウ 振り返りが次の一歩を助ける

エ 書き留める必要はない こたえ _____

- 14 相手の話を最後まで聞くことは、意外とむずかしい。だが、よく聞くことがよい話し合いの第一歩だ。

ひっしや い ようし
筆者がいちばん言いたいこと(要旨)は？

ア 自分だけ話せばよい イ 話は聞かなくてよい ウ よく聞くことがよい話し合いの第一歩だ

エ 話し合いは不要だ こたえ _____

- 15 ごみを減らすことは、一人一人の小さな心がけから始まる。まずは自分にできることから始めてみよう。

ひっしや い ようし
筆者がいちばん言いたいこと(要旨)は？

ア 自分にできることからごみ減らしを始めよう イ 小さな心がけには意味がない

ウ ごみは国だけが減らすものだ エ ごみは減らせない こたえ _____

- 16 同じ景色でも、見る人の心のもちようで美しくもさびしくも見える。ものの見方は一つではない。

ひっしや い ようし
筆者がいちばん言いたいこと(要旨)は？

ア 景色はいつも同じに見える イ 見方はみな同じだ ウ ものの見方は一つではない

エ 美しさは決まっている こたえ _____

17 ^し知らない^{ことば}言葉^でに出^ばあったら、その場で辞書^{じしょ}を引^ひく。この習^{しゅうかん}慣^{たし}が、確^{ことば}かな言葉^{ちから}の力^{そだ}を育て^{そだ}てくれる。

^{ひっしや}筆者^いがいちばん言^{ようし}いたいこと(要旨)は？

^{ことば}言葉^{ちから}の力^{そだ}は育^わたない ^{ことば}イ 分^{はな}からない言葉^{はな}は放^{はな}っておいてよい

^{じしょ}ウ 辞書^ひを引^{しゅうかん}く習^{ことば}慣^{ちから}が言葉^{そだ}の力^{そだ}を育て^{そだ}る ^{じしょ}エ 辞書^{ひつよう}は必要^{ひつよう}ない ^{ことば}こたえ _____

18 ^{にほん}日本^{みず}は水^{ゆた}が豊^みかに見^みえる。しかし、実^{じっさい}際^{つか}に使^{みず}える水^{かぎ}は限^{みず}られている。水^{みず}を大^{たいせつ}切^{つか}に使^{つか}うこと^{ところ}を心^{こころ}がけるべきだ。

^{ひっしや}筆者^いがいちばん言^{ようし}いたいこと(要旨)は？

^{みず}ア 水^{たいせつ}を大^{つか}切^{つか}に使^{みず}うべきだ ^{みず}イ 水^{つか}は使^{すいどう}うほどよい ^{みず}ウ 水^の道^のの水^のは飲^のめない

^{にほん}エ 日本^{みず}には水^{むげん}が無^{むげん}限^{むげん}にある ^{ことば}こたえ _____

19 ^{ねむ}しっか^ひり眠^{あたま}った日^{がくしゅう}は、頭^{がくしゅう}がすっきりして学^{すいみん}習^{まな}もはかどる。じゅうぶんな睡^{すいみん}眠^{まな}は、学^{まな}びの^{どだい}土^{どだい}台^{どだい}だ。

^{ひっしや}筆者^いがいちばん言^{ようし}いたいこと(要旨)は？

^{すいみん}ア 睡^{かんけい}眠^{かんけい}は関^ね係^{じかん}ない ^ねイ 寝^{じかん}る時^{じかん}間^{じかん}はけずるべきだ ^{すいみん}ウ じゅうぶんな睡^{まな}眠^{どだい}は学^{まな}びの土^{どだい}台^{どだい}だ

^よエ 夜^よふか^よしがよい ^{ことば}こたえ _____

20 ^{あいさつ}あいさつやあ^{ひとこと}りがとうの一^{かね}言^{かね}は、お金^{かね}がかか^{まわ}らない。それ^{まわ}でい^{あか}て、回^{あか}りを明^{あか}るくする大^{おお}き^{おお}な力^{おお}を持^{もち}っている。

^{ひっしや}筆者^いがいちばん言^{ようし}いたいこと(要旨)は？

^{ことば}ア 言葉^{ちから}に力^{ちから}はない ^{かね}イ あいさつや感^{かんしゃ}謝^{かんしゃ}の言^{ことば}言葉^{ことば}には大^{おお}きな力^{ちから}がある ^{だま}ウ 黙^{だま}っていたほう^{だま}がよい

^{かね}エ お金^{かね}をか^{かね}けるべきだ ^{ことば}こたえ _____

こたえ しょう6 こくご「文章の要旨・筆者の主張」 その2

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 ア 失敗から学ぶことが上達への近道だ | 11 ア 失敗を振り返ることが次につながる |
| 2 ウ 読書は想像する力を育てる | 12 ア 違いを認め合うことが大切だ |
| 3 イ 整理整頓を習慣にしたい | 13 ウ 振り返りが次の一歩を助ける |
| 4 ア 読書は世界を広げてくれる | 14 ウ よく聞くことがよい話し合いの第一歩だ |
| 5 ア こつこつ続けることが大きな力になる | 15 ア 自分にできることからごみ減らしを始めよう |
| 6 ウ 場面に合ったていねいな言葉を選びたい | 16 ウ ものの見方は一つではない |
| 7 ア 挑戦する一歩が自分の世界を広げる | 17 ウ 辞書を引く習慣が言葉の力を育てる |
| 8 エ あきらめずじっくり考えぬくことが大切だ | 18 ア 水を大切に使うべきだ |
| 9 ア よくかんでゆっくり食べることを大切にしたい | 19 ウ じゅうぶんな睡眠は学びの土台だ |
| 10 エ 間違いをおそれず話すことが上達への近道だ | 20 イ あいさつや感謝の言葉には大きな力がある |